

平成28年度 第4回櫛葉町原子力施設監視委員会 開催報告

平成28年12月6日（火）に、平成28年度第4回櫛葉町原子力施設監視委員会を開催しました。今回は、福島第一原子力発電所の視察を行い、廃炉に向けた各種作業の安全対策、進捗状況等を確認しました。

■議題（1） 福島第一原子力発電所の現状について

事前に委員会から示した以下の6項目に関する論点をもとに、東京電力ホールディングス（株）から、現在の状況、各種作業の進捗状況や対応等について説明を受け、質疑応答を行いました。

- | | |
|-----------|--------------|
| 1.核燃料 | 4.廃棄物等の対策 |
| 2.建屋カバー解体 | 5.防災対策・体制 |
| 3.汚染水・処理水 | 6.最近起きたトラブル等 |

▶東京電力
による説明



■構内視察

● 高性能多核種除去設備

高性能多核種除去設備（いくつかのフィルタを通し、トリチウム以外の放射性物質を取り除く）の運転状況を確認しました。

● 1～4号機建屋状況

1～4号機建屋の状況をバス車内より視察、確認しました。

1号機

- ・ 建屋カバーの壁パネルの取り外し完了。現在は、カメラを用いてガレキがどんな状態で散らばっているのかを調査し、放射性物質を飛散させないようにガレキを撤去する手順・手法を検討中。

2号機

- ・ デブリがどこにあるのかなど、建屋内部の様子を調査中。
- ・ 排気筒下部に高線量の水たまりがあるため、対応中。

3号機

- ・ 原子炉建屋屋上部のガレキは取り除かれ、現在は使用済燃料取り出しに向け、遮へい体の設置が行われている。その後、燃料を取り出すための建屋カバーが設置される予定。

4号機

- ・ 使用済燃料の取り出しが終わり、炉心内にも燃料は存在しない。

福島第一原子力発電所にて

会議《入退域管理施設会議室》（9:20～10:30）

■議題（1）

福島第一原子力発電所の現状について（核燃料の状況、汚染水や廃棄物対策等）

■構内視察（10:30～13:15）

- 高性能多核種除去設備
- 1～4号機建屋状況
- 凍土壁凍結状況
- B, C, K排水路出口および海側遮水壁
- 廃棄物関連設備の新增設予定地
- 固体廃棄物焼却設備

会議《入退域管理施設会議室》（14:00～14:55）

■視察を踏まえた質疑

■議題（2）

最近の保安検査結果について



▲委員による福島第一原子力発電所
構内の視察



▲高性能多核種除去設備について
説明を受ける委員
（写真奥が当該設備）

● 凍土壁凍結状況

4号機南側にて、凍土壁の凍結状況を確認しました。1～4号機建屋周りには約1.5kmにわたって地盤を凍結するための凍結管（管内部に -30°C の塩化カルシウム溶液が循環している）が1m間隔で地中に設置されています。視察時、地表面から40cmの地点に温度計が差し込まれており、凍結管中心ラインでは -12.2°C 、凍結管から水平方向に60cm、80cm離れた地点ではそれぞれ -10.5°C 、 -9.2°C を示していました。



▲東京電力による凍土壁の説明



▲委員による凍土壁の視察

● B, C, K 排水路出口および海側遮水壁

海側護岸エリアにて、B, C, K 排水路出口および海側遮水壁を確認しました。このエリアには東日本大震災時の津波で被災した設備等が、まだ取り残されていました。今後使う予定はなく、他の優先順位が高い作業の後に撤去する予定であるとの説明がありました。

● 廃棄物関連設備の新增設予定地

廃棄物関連設備の新增設のため、5・6号機北西の高台に敷地造成が行われていることを確認しました。

● 固体廃棄物焼却設備

作業員が着たタイベックス等を焼却する固体廃棄物焼却設備では、焼却の際に灰や煙が生じますが、フィルタを通して排煙し、灰はドラム缶に詰めて安全な状態にして保管することを確認しました。



▲廃棄物関連設備の建設工事



▲固体廃棄物焼却設備

■議題（2） 最近の保安検査結果について

原子力規制庁から、福島第一・第二原子力発電所における保安検査（平成28年度第2四半期）の結果について説明を受け、原子炉保安規定の順守状況に関して質疑応答を行いました。安全な廃炉に向けて、より厳しい指導、検査を行っていただくよう求めました。

現在、当日の東京電力ホールディングス（株）の説明に対して、委員会から再質問をしています。
回答を得て第5回委員会にて議論した後、第4回委員会議題についての確認・評価の詳細をお知らせします。